私たちの課題別研修のテーマ「盲導犬」について見学・質問・交流・体験を通じて研究を深める
（岩手県盛岡市立厨川中学校）

＝　研究発表会のお知らせ　＝

（財）全国修学旅行研究協会と東海、関東、近畿の各地区公立中学校修学旅行委員会は、「みんなで創ろう21世紀の修学旅行」をテーマに研究大会（研究発表会）を開催する。

第19回全国修学旅行研究大会
○期日　平成14年11月22日（金）13時～16時30分
○場所　名古屋市「ルプラ王山」
○内容　(1)実践研究発表１　「主体的に取り組む修学旅行」
三重県四日市市立西陵中学校
(2)実践研究発表２　「自ら考えともに学ぶ修学旅行」
―総合的な学習「ともに生きる」の中に位置付けて―
愛知県稲沢市立明治中学校
(3)研究協議・指導講評
(4)特別講演

第38回関東地区公立中学校修学旅行研究発表会
○期日　平成14年11月15日（金）13時～16時30分
○場所　さいたま市「さいたま市民会館おおみや」
○内容　(1)委員会調査研究報告
(2)研究発表１　「自ら学び自ら考える力の育成を目指す修学旅行」
埼玉県神泉村立神泉中学校
(3)研究発表２　「総合的な学習の時間の視点から見た修学旅行」
埼玉県飯能市立高麗中学校
(4)研究協議・指導講評

第17回近畿地区中学校修学旅行研究大会
○期日　平成14年11月15日（金）13時30分～16時30分
○場所　奈良市「春日野荘」
○内容　(1)実践研究発表１　「学び、育てよう“沖縄のこころ”」
―総合的な学習を通して―
奈良県奈良市立春日中学校
(2)実践研究発表２　「（平和・交流・自然）体験旅行」
和歌山県南部川村立清川中学校

学校のインターネット接続率は、ほぼ１００％に到達

―文部科学省の平成13年度情報教育実態調査結果まとまる―

このたび、文部科学省より「平成13年度、学校における情報教育の実態等に関する調査結果」がまとまり、同省のホームページ上で公開された。

文部科学省では、学校教育の情報化推進計画の中で、平成13年度までの目標として、◎全ての公立小中高等学校等をインターネットに接続する、◎全公立学校教員がコンピューターが操作でき、半数はコンピューターを用いて指導できるようにするとの目標で取組んできた。

今回発表された調査結果は、平成14年3月31日現在の情報化推進計画の進捗状況で、内容は、全国の公立小中高等学校における、①コンピューターの整備の実態等、②インターネットへの接続状況、③ソフトウェア整備の実態等、④教員のコンピューター活用等の実態を調査したものである。

【調査結果の概要】
（文部科学省公開資料より抜粋）

1．コンピューター整備の実態等（表―1）

1．コンピューターの設置状況（公立学校）　（単位：校、台、人）

学校種	年　度	学校数	教育用コンピューター台数	1学校当たりのコンピューター台数	コンピューター1台当たりの児童生徒数
小学校	H13年度	23,506	377,797	16.1	19.2
	H14年度	23,251	480,332	20.7	15.0
中学校	H13年度	10,407	371,305	35.7	10.3
	H14年度	10,357	400,582	38.7	9.3
高等学校	H13年度	4,151	304,142	73.3	10.0
	H14年度	4,139	355,720	85.9	8.4

(1)教育用コンピューターの1学校当たり設置台数は、小学校20・7台、中学校38・7台、高等学校85・9台で、前年度より大幅に増えた。
(2)教育用コンピューター1台当たり児童生徒数は、小学校15・0人、中学校9・3人、高等学校8・4人となっている。

〈参考〉教育用コンピューター1台当たりの生徒数、上位都道府県
1．山梨県　6・9人／台
2．高知県　7・1人／台
3．岩手県　7・4人／台
4．鳥取県　7・7人／台
5．岐阜県　8・0人／台

(3)持ち運びが可能なノート型の教育用コンピューターの割合は、全体の10・6％となっており、インターネット利用などが可能となるマルチメディア対応の教育用コンピューターの割合は、全体の96・2％となっている。

2．インターネットへの接続状況（表―2）

(1)インターネットに接続している学校の比率は、小学校97・2％、中学校99・2％、高等学校99・1％となっており、ほぼ全国の全ての小中高等学校でインターネット接続が完了とすると言える。
〈参考〉インターネット接続率状況は、電話回線（ISDN回線）が54・8％、CATV接続が15・6％、となっている。
(2)ホームページのある学校数は、小学校で9、451校、中学校で4、400校、高等学校で2、907校となっており、学校種別毎の全学校数に占める比率は、小学校40・6％、中学校42・5％、高等学校70・2％となっている。
(3)電子メールアドレスを持つ学校数の学校種別毎の全学校数に占める比率は、小学校94・5％、中学校95・5％、高等学校92・5％となっている。
(4)インターネットへの接続は、学校から民間プロバイダに直接接続している学校が接続校全体の52・1％、セキュリティの確保や有害情報のフィルタリング等を行なうために教育センターや自治体ネットワークセンターなどの公的機関を経由して接続している学校が46・6％となっている。
(5)回線種類別の接続状況は、電話回線（ISDN回線）が54・8％、CATV接続が15・6％、となっている。

2．インターネットの接続状況、ホームページ、電子メールの状況（公立学校）　（単位：校、％）

学校種	年　度	学校数	インターネット接続学校数	学校のインターネット接続率	ホームページのある学校数	ホームページのある割合(A)	ホームページのある割合(B)	電子メールアドレスをもつ学校数	電子メールアドレスの持つ割合(A)	電子メールアドレスの持つ割合(B)
小学校	前年度	23,506	17,828	75.8	6,042	25.7	33.9	－	－	－
	H14.3.31現在	23,251	22,594	97.2	9,451	40.6	41.8	21,978	94.5	97.3
中学校	前年度	10,407	9,292	89.3	3,276	31.5	35.3	－	－	－
	H14.3.31現在	10,357	10,271	99.2	4,400	42.5	42.8	9,896	95.5	96.3
高等学校	前年度	4,151	3,761	90.6	2,482	59.8	66.0	－	－	－
	H14.3.31現在	4,139	4,103	99.1	2,907	70.2	70.9	3,829	92.5	93.3

（注1）(1)　ホームページのある割合(A)は、ホームページのある学校数÷総学校数の比率です。
(2)　ホームページのある割合(B)は、ホームページのある学校数÷インターネット接続学校数の比率です。
（注2）(1)　電子メールアドレスを持つ学校数の割合(A)は、電子メールアドレスを持つ学校数÷総学校数の比率です。
(2)　電子メールアドレスを持つ学校数の割合(B)は、電子メールアドレスを持つ学校数÷インターネット接続学校数の比率です。

3．教員のコンピューター活用等の実態

(1)コンピューターを操作できる教員数は、全体で84・9％となっている。
(2)コンピューターで見ると、理科、数学、技術、職業教科・科目が多い。

「学校教育の情報化推進計画」は平成17年度（2005年度）までの目標と推進計画をたてており、目標は、全ての公立小中高等学校等の、全ての学級のあらゆる授業において教員および生徒がコンピューターやインターネットを活用できる環境を整備するとしている。

財団法人全国修学旅行研究協会では、昨年、インターネット活用による「修学旅行ホームページコンクール」を全国の小中高等学校を対象として実施し、全国より391校の応募を得た。本年度は、新たに文部科学省、朝日新聞社の後援を得て現在、第2回ホームページコンクールの応募校を募っている。

修学旅行新聞
発行所　財団法人
全国修学旅行研究協会
発行人　黒田武信
〒102-0074
東京都千代田区九段南
2－6－8九段南ビル
☎03（5275）6651
http://shugakuryoko.com
e-mail shuryo@h2.dion.ne.jp

財団法人全国修学旅行研究協会（全修協）は、日本の教育の振興に寄与することを目的とし、教育を熱愛し子供たちの幸福を希求する人々の支持を得て、修学旅行の改善向上を目指して、全国的規模で活動する文部省許可の教育研究財団です。

風紋

石山の石より白し秋の風　（おくのほそ道）。芭蕉が加賀国の那谷寺を訪ねたときの発句である。今も天然記念物になっている石山寺の凝灰岩の白さは名高いが、当時、那谷寺の石山は、更に白いといわれていた。秋の風はその那谷寺の石山よりも白いと芭蕉は感じた▼倉嶋厚さんは「秋風を白く感じさせる第一のものは、空の高さではないかと思う」と「お天気博士の春夏秋冬」の中で書いている。芭蕉の句は、自然を友とした彼の鋭い観察によるものであろう▼「天高く馬肥ゆ」は古来から言い習わされた秋の情景だ。運動会、遠足、そして修学旅行の秋のシーズンがはじまった。澄みきった秋空のもと、環境や生活、歴史など、種々の体験に挑む子供たちの自主的な活動に期待したい▼北原隆吉は、同人雑誌の中で号をくじできめることになり、秋をひいて白秋としたという。中国の四神のうち、白虎は西の守護神であり、季節では秋を配する。そう言えば、白秋の生家柳川は西日本の九州だ▼白秋の「この道はいつかきた道」はよく知られる。芭蕉は求める道を「この道や行く人なしに秋の暮」と詠んだ。芭蕉忌十月十二日、白秋忌十一月二日。日一日と秋は深まる。

教育の窓

教えない教師

東京農業大学教授
元文部省主任視学官
渡部邦雄

一　「支援」でよいのか

マスコミなどにおける「学力低下」論争も少しは下火になったようである。文部科学省の矢継ぎ早の施策や新学習指導要領についての誤解が多少は解けたことも一因であろう。

学力についての概念規定には多様なものがあり、いまだに議論がかみ合わないこともある。しかし、多くの人が以前に比べて、基礎的、基本的な学力に問題がありそうだと考えているのも事実だ。

掛け算の九九が分からない、漢字の読み書きの能力が不足しているなどである。

その原因を学校の指導の在り方に求め、それへの要望も多い。

学校教育は、一人一人の子どもの個性や自主性の尊重を重視してきた経緯がある。

しかし、そのことを重視するあまり、教師の子どもへの指導が十分ではない傾向が見られるようになった。

すなわち「指導」はだめで、「支援」でなくてはならないなどである。指導は教師中心でありよくないのであって、子どもの発想、考え方やその過程を大切にした支援こそが重要だと言う。（指導も同様のはずだが）

その考え方はよい。

しかし、中には子どもが気づいたり、考えたりするまでは、何も手を出さないほうがよいと言った言葉遊びに振り回され、肝心の教育の本質を見失わないようにしたいものだ。

指導、援助、支援といない。

二　教師とは

国語教師として戦後の教育界にすばらしい足跡を残された大村はま先生の著作を最近読み直してみた。

そこには、信州の高等女学校を振り出しに、戦後の新制中学校などで、混乱期を真の教師を目指して真剣に生きてこられた姿がある。

教師に関しては、「教師が学校で本当に教えていないのではないか」と危惧される。

本来学校でやるべきことをやらないことを教えないと言うのだと述べられ、学校には教えない教師が多いと嘆いておられる。

「いつも我が身を責め、子どもに着実な力をつけて、責任を全部自分にとっていくことができるのが教師である。このような覚悟がないと、優しさだけが身上に思え、子どもが好きだとか、暖かい心さえあればとか甘い考え方になってしまう」

「本当にかわいがるというのは、こどもをとにかく少しでもよくしていける、教師という職業人としての技術、専門職としての実力をもつこと」

「こどもへの愛情とは、とにかく子どもが自分の手から離れて、一本立ちになったときに、人間としてどういうふうに生きていけるかという、一人で生きていく力をたくさん身につけられさえすれば、それが幸せにしたことだと思う、つけられなかったら、子どもを愛したとは言えない」

などの先生の言葉を今一度、教師としての自分に問うてみる必要があるのではないか。

子どもたちに、基礎的、基本的な力をつけてやることも、人間性豊かな子どもに育てることも、本物の「生きる力」を体得させることも教師の責任である。

「一生懸命やったけれどもだめだったのだ。自分の努力を認めてほしい。」「家庭学習を十分やっていないから実力がつかないのだ。自分の指導力不足ではない。」などの言い訳は、プロとして、職業人として控えるべきだと思うがいかがか。

（言い分はいくらもあろうが。）

三　教師とは

いと考える教師がいる。これは支援に名を借りた放任ではないのか。

指導してこそ教師である。指導を教化、教え込みととらえてはならない。

坂本先生はいいました。「誰にでも一つや二つ良いところがある。それに自信を持って生きていけ。」と。僕は、その一見ありきたりな言葉に感激しました。勉強や部活で目立たない僕。不器用な僕。毎日を生活していくだけで精一杯の僕。こんな僕でも一つや二つ良いところがあるのかと思うと、勇気と自信が湧いてきました。「自信」……この言葉を中学生になってから、僕は忘れていたような気がします。坂本先生は、厨中の学習旅行の内容をとても誉めていました。一人一人の調べたいことをこんなに大切にしているところはない。」と。僕達の学校は、そんなにすごいのかと驚きました。……（中略）

5．事後学習

学習旅行で調査した研究を、ひとりひとりがレポートに作成し、そのレポートをもとにグループごとに発表会をおこなった。そのプレゼンテーションの発表は、盛岡市内の新任教員の総合学習の実践の研修内容として多くの先生がたが参

ある、中央大学講師の坂本光男先生に『東京からみた岩手のすばらしさ』という演題で講演をしていただいた。

講演後、生徒たちが練習してきた『組曲ぼくら風の三郎』の第3部『求めよ　さらば』を感謝の意を込め、合唱した。

※生徒たちの感想から

修学旅行実施事例紹介 29

東京学習旅行　社会と人間

共生　～共に生きる～

盛岡市立厨川中学校

1．学校紹介

盛岡市立厨川中学校（山本詔夫校長）全校生徒652名、3学年224名

昭和22年、盛岡市立厨川中学校として創立。今から900年前、陸奥の覇者の安部宗任が京に囚われの身となり詠んだ歌から「北梅の精神」のもと教育活動を実践している。昭和40年代は、テストのない学校、通知票のない学校として『厨中教育』の実践、学習旅行と称しての研究旅行活動など特色ある教育に取り組んできた。ボランティア活動にも力を入れ、フィリピンに姉妹校をもち、5人の里子の里親として援助し、また身近な老人施設への訪問にも取り組んでいる。

平成11年度から研究活動の地を北海道から東京に変え、4年目であり、総合学習の一環として取り組んできている。

2．旅行期日・人員

旅行期間：平成14年4月23日(火)～4月26日(金)（3泊4日）

参加人数：3年生224名

3．特色ある取り組み

◎学級別見学選択：…各学級が見学したい場所を選択し、見学することができる。

◎課題別研修：…個々の興味や関心に応じて、自分の課題を設定し、訪問する中で課題解決の方法を学ぶ。

◎個別見学研修：…グループで、一日の行動計画を立て、広く東京の文化に触れる。

◎講演会と感謝の集い（第2日目）

内容：生徒ひとりひとりが自分の興味や関心に応じて、研究課題を設定し、事前に資料や情報を収集しながら調査活動をすすめる。その学習の中で明らかになったことの確認や疑問点を解決するための視点を定め、訪問先を決定する。今年度は、224名の生徒が89のグループに分かれ、午前一ヵ所午後一ヵ所計二ヵ所合計約170ヵ所の訪問場所を訪れ、自分の課題に対しての解決学習に取り組んだ。事前学習、質問事項の送付、事後のレポート作成お礼状の発送など、自分たちの興味あるテーマを設定したこともあり、意欲的に取り組んだ。

◎講演会と感謝の集い

東京学習旅行でお世話になったすべての方々へ感謝の気持ちをこめ『感謝の集い』と称して準備をすすめてきた。また感謝の集いの中では、『社会と人間』を実践している人生の先輩から毎年講演をいただいている。今年は、気生活指導の第一人者でした。「自信」……この

課題別研修、私たちの研究テーマは「ヘアメイク」

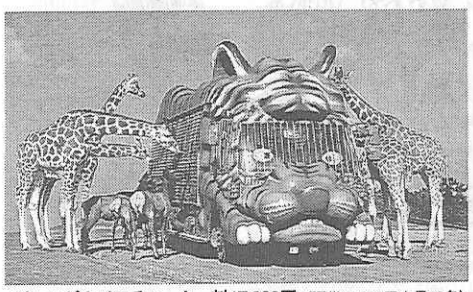
4．学習内容

日次	スケジュール
第1日	盛岡(やまびこ)＝＝＝＝東京＝学級別見学＝船の科学館（夕食）＝希望別鑑賞＝都内ホテル泊（7:30 / 9:51）
	希望別鑑賞＜劇団四季、帝国劇場、神宮球場・東京ドームでの野球観戦＞
第2日	ホテル…課題別研修（89グループ・170ヶ所を訪問）…東京ディズニーランド＝都内ホテル泊
第3日	ホテル…個別見学研修…都内ホテル泊
第4日	ホテル＝講演会・感謝の集い（江戸東京博物館ホール）＝東京(やまびこ)＝＝＝＝盛岡（13:25 / 15:46）

課題別研修コース　研究テーマ一覧

サッカーの歴史/Ｌリーグと Ｊリーグとの違い/理想の野球選手/実業団選手の現状/スポーツ用品ができるまで/柔道の歴史/ハンドボールの歴史/陸上の歴史/国会議事堂/死刑制度/色/言語/自衛隊/犯罪心理/地雷除去/病原菌/医療ミス/医療/薬剤師/動物病院/獣医/動物/交通/交通/販売上について/店の経営について/接客マナー/販売員について/製菓職人/ケーキ職人/デパートの商売競争/農業について/東京の老舗/栄養士/ドラマ製作/ドラマ製作・番組製作・報道の仕組み/TV・アニメ製作/報道・声優/ラジオ製作/楽曲製作/音楽・楽曲/出版・本製作/動物の訓練/人の役に立つ犬/盲導犬/バリアフリー/ボランティア/募金/迷惑メール/ドラッグ/就職難/狂牛病/エコマーク/東京湾の埋立地/リサイクル/オゾン層/地球温暖化とオゾン層について/大気汚染について/東京湾/川/ゴミ問題/教科書ができるまで/大学設立の歴史/浅草の歴史/和菓子について/オートバイの魅力/自動車の技術進歩/東京タワー建設/少年犯罪/メイク関係/気象・衛生関係/肌を美しく保つ化粧品について/科学・宇宙について/デザイナー関係/動物病院/ファーストフード/楽器ができるまで/ヘアメイク/水族館/おもちゃ・玩具/アニメ製作/電気機器の発展/動物関係の仕事/ゲーム作成関係/ゲーム開発/日本の伝統の味/

動物たちとふれあいながら楽しく学ぶ。
他では体験できないプログラムが充実！



ジャングルバスチャーター料17,000円（通常21,000円定員30名）

●入園受付時間
9：00～17：00（3月16日～11月15日）
9：30～16：00（11月16日～3月15日）
●修学旅行料金（消費税含む）
高校生1,200円 中学生900円 小学生800円
※ガイドラジオ バス1台につき1,100円

文部科学省指定・博物館相当施設
九州自然動物公園
アフリカンサファリ
〒872-0722 大分県宇佐郡安心院町大字南畑
TEL(0978)48-2331 FAX(0978)48-2330
ホームページ http://www.africansafari.co.jp

古代文化邪馬台国ルート
壱岐へ…
魏志倭人伝に一支国の名で記されている。
古代大陸交流の要としてクニを構えていた壱岐。
イルカとの共生をはじめ自然とのふれ合いが出来る絶好の教育旅行の場としてお薦めします。

壱岐教育旅行受入協議会事務局
九州郵船
TEL（092）281-0831
FAX（092）281-0444
URL http://www.kyu-you.co.jp